

ジュニア賞

地方から「おもてなし隊」！

梅澤 優子 (高校3年生：埼玉県)

2020年の東京オリンピック開催に併い、外国人観光客が増えている。私の家では、ボランティアで外国人観光客を家に招き食事を共にしたりしている。その活動をする中で、観光地ではない「リアルな日本」やいわゆる「田舎」と呼ばれる場所に興味を持っている外国人が多くいることに気がついた。そこで、多くの外国人観光客が、地方へ足を運ぶ仕組みのゲームをつくり、地域活性化に繋がりたいと考える。

このゲームは、多様な言語に対応可能なアプリとし、スタンプラリー形式にて行う。

1. 地域活性化を望む地方自治体を通じて「おもてなし隊」を募る。
2. 「おもてなし隊」は、その地域での体験プログラムを提供し、そのアプリに写真付きでその魅力やアクセス方法などを掲載する。体験によっては有料。日本語にて掲載されたものは、多様な言語に翻訳される。(餅つき、祭り、田植え、稲刈り、漁業体験、一日店長、藍染体験、紙すき体験、そば打ち、ハイキング、釣りなど)
3. 外国人が体験プログラムに参加したり、その体験やその地域のことについて投稿することによりスタンプがもらえる。
4. スタンプが集まると、日本らしい待ち受け画面を獲得できる。また、その待ち受け画面には、体験プログラムにて撮った写真との合成が可能。

このゲームにより、プログラム提供を行った「おもてなし隊」からその地方の良さを発信することができる。地方に人が集まりお互いに異なる文化に触れることで良い刺激を生み、好循環をもたらす。人と人とのつながりが、その地域へのリピーターを増やすかもしれない。小学校から英語教育が重要視されている中、このゲームをうまく活用すれば、子供たちに生の英語や他文化とのふれあいを可能とさせる。東京オリンピックだけに終わらせず海外に日本のファンを増やししながら地域活性化がなされる本ゲームは、社会をかえる「夢のゲーム」といえるだろう。